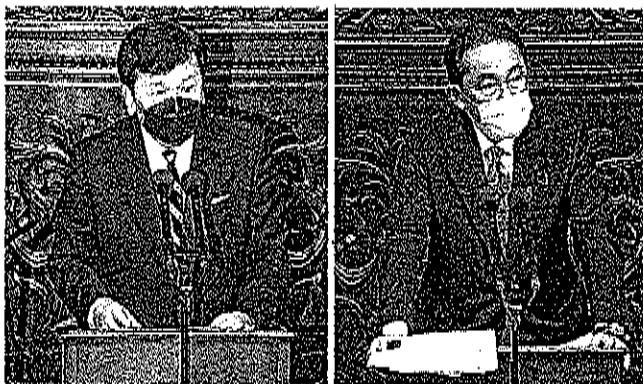


10/12
朝日

衆院代表質問

金融所得課税見直し首相修正



「分配政策 選択肢の一つ」

岸田文雄首相の所信表明演説に対する代表質問が11日、衆院本会議で始まりました。首相は自民党幹部選で掲げた株式配当など金融所得への課税強化策について、10日のテレビ番組で「当面は金融所得課税に触る」ことは考えていない」と軌道修正した。この日の代表質問では、「金融所得課税の見直しが、成長と分配の好循環を実現するための様々な分配政策の選択肢の一つ」と述べた。▼2面=いきなり先送り、3面=見解変わらず、4面=夫婦別姓に慎重、12面=社説

現行の金融所得課税は、法律20%で、金融所得の多い富裕層では所得が1億円の人を境に所得税の負担率が下がっている。総裁選の政綱案で首相は「金融所得課税の見直しなど」1億円の「壁」の打破」を掲げた。

立憲民主党的な枝野幸男代表は代表質問で、立憲がまとめた金融所得課税の強化策を主張。そのうえで首相

に対し「所信での言及がない、テレビでの事実上否定してしまった。具体的なことわざるのか」と迫った。首相は「質上位に向けた税制の強化、下請け対策の強化など、必ずやるべきことがたくさんある。分配政

策の優先順位が重要だ」と説明。質上位に積極的な企業への支援強化策の検討から始めると、「税制のあり方は政府や与党の税制調査会等の場で議論頂いたい」と述べた。政府の新規「ロナウイル

ん(当時5)の妻・雅子さん(35)の再調査を求める手紙を朗読。首相は「手紙は拝読いたしました。内容はしっかり受け取れました。返事等については慎重に対応したい」と述べた。代表質問は13日まで。首を表明している。

前政権までの「質の適應」への対応も問われた。「取りまとめている」として、「検察の捜査も行われる結果の出でる」と答弁した。立憲の辻元清美副代表は代表質問で、改革へと課題を徹底的に調査し、財務局職員、赤木健太さ

森友「結論出ている」

⑤衆院本会議で、立憲民主党・枝野幸男代表の代表質問に答弁する岸田文雄首相

⑥枝野代表=いよいよ立候補 上田義一撮影